

小中学校の適正な規模等に関する意見交換会 議事録

1 開催日時

令和7年9月22日（月）午後6時30分～午後8時

2 開催場所

藤山台中学校 体育館

3 参加者数 6名

【事務局】

春日井市教育委員会		部長	森本 邦博
〃	学校教育課	主幹	梶田 傑
〃	〃	指導主事	田中 秀治
〃	〃	課長補佐	深見 健司
〃	〃	主査	安田 和志
〃	〃	主事	杉山 太一

4 議題

藤山台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

5 会議資料

小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について（藤山台中学校）

午後 6 時 30 分 開会

1 開会

教育部長あいさつ

2 議題

- (1) 藤山台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

【事務局】

<本市の基本的な考え方とこれまでの取組について>

- ・児童生徒数は全国的な少子化の進展に伴い減少を続けており、本市においても、同様に減少していくと推定される。子どもたちにとってより良い教育環境を実現するために、学校の適正規模や適正配置について検討を進める必要がある。
- ・学校規模の区分について、本市では今年 2 月に「小学校・中学校の適正規模の基本的な考え方」を策定し、その中で、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から学校規模の区分を設けた。
- ・クラス替えが可能であれば、児童生徒同士の間関係に配慮した学級編成ができることや、集団の中で社会性を身に付けたりできるなど、子どもたちにとって多くのメリットがあることから、本市では、小学校、中学校ともに 1 学年に 2 学級以上あることが必要であると考えている。
- ・どの学年もクラス替えができない「過小規模校」や一部の学年でクラス替えができない「小規模校」について、過小規模校を優先に、適正規模の確保に努めるように検討することとしており、「坂下」「藤山台」「高森台」「石尾台」「岩成台」の 5 つの中学校区にある学校を最優先に検討を進めている。
- ・これまでの取組として、令和 7 年 4 月から 5 月にかけて、対象校区の小中学校 17 校の P T A 役員の皆様への説明と意見交換を実施した。その後 5 月から 6 月にかけて児童生徒やその保護者の皆を対象に、6 月から 7 月にかけて、地域にお住まいの方を対象にアンケートを実施した。

<児童生徒数推計について>（資料 1 ページ）

- ・昭和 45 年度から令和 19 年度までの、藤山台中学校の生徒数の推移は、昭和 59 年度の 1,129 人をピークに、令和 19 年度では 92.7%減少の 82 人と推計される。

- ・藤山台中学校は、今年度、生徒数 190 人、6 学級で、学校規模は、小規模だが、全学年でクラス替えができる「やや小規模」となる。今後は、生徒数、学級数ともに減少し、令和 15 年度には、クラス替えができない学年のある「小規模」に、令和 16 年度からは、全学年でクラス替えができない「過小規模」になると推定される。
- ・藤山台小学校は、今年度、児童数 317 人、12 学級で、学校規模は「適正規模」となる。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 11 年度には「小規模」となり、令和 22 年度では「過小規模」とであると推定される。

<アンケート結果について>（資料 2～5 ページ）

- ・「1 学年に 2 学級以上となるように、学校の適正な規模や配置に市が取り組むことについて」の質問では、藤山台中学校は、「賛成」の方の割合が保護者で 77.5%となっている。地域の方のアンケート結果は、小学校単位で取りまとめを行っていることから、藤山台小学校の地域アンケート結果を見ると 86.9%の方が賛成と回答している。

「反対」の方は、保護者で 2.9%、地域の方はいなかった。反対の理由として、保護者の方は「登下校の時間や方法」を心配する方が多かった。藤山台中学校区では、中学校、小学校ともに「賛成」の割合が高くなっている。

- ・先ほどの質問に対して「賛成」と回答した方のうち、「ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて」では、藤山台中学校、藤山台小学校ともに「賛成」の割合が、保護者、地域の方のいずれも高い比率となっている。
- ・学級数については、保護者の方、児童生徒ともに 1 学年に複数学級が望ましいと考えている方が多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えている。

藤山台中学校では、回答された全ての保護者の方が複数学級を望ましいと考えており、生徒は 98.2%が複数学級が望ましいと考えている。

- ・「学校生活において重要と思うこと」では、児童生徒は、「クラスが変わって、新しい友達がたくさんできること」や「体育大会などの行事でクラスに活気があること」が大事だと考えている。

地域の方は、「子どもたちの登下校」や「多くの子どもたちによる人間関係の広がり」が重要と考えている。

- ・「魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと」では、保護者の方は、「子どもの人間関係に広がりがあること」や「幅広い部活動やクラブ活動が存在し、活発に活動していること」、「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」が重要と考えている。

地域の方は、「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れること」をととても多くの方が重要と考えている。

- ・「学校の適正規模等の取組において心配なこと」では、保護者の方は、登下校に関して心配と考えており、登下校については、安全性や時間が重要と考えている。

藤山台中学校、藤山台小学校ともに、半数以上の方が「登下校に関すること」を心配と考えている。

＜本市の考え方について＞（資料 6 ページ）

- ・「児童生徒数推計」から、令和 22 年度では、藤山台中学校、藤山台小学校ともに、全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であり、小中学校の 9 年間でクラス替えない環境になることが推定される。
- ・「アンケート結果」からは、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級を希望する意見が多い。保護者は、子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は、クラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えている。一方で、学校の規模や配置を見直す場合に、多くの方が登下校に関し心配している。
- ・「地域の特性」として、藤山台中学校区はニュータウン地区内で、岩成台中学校区、高森台中学校区と接しており、藤山台中学校は、直線距離で、岩成台中学校から約 0.9 km、高森台中学校から約 1.5 km の距離に位置している。また、過去に藤山台小学校、藤山台東小学校、西藤山台小学校の 3 校を統合し、藤山台小学校は、中学校区内の唯一の小学校となっている。
- ・「児童生徒数推計」「アンケート結果」「地域の特性」を踏まえ、本市としては、藤山台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように、具体的な検討を進めていきたいと考えている。

また、検討にあたっては、次のことに留意をする。

- 1 藤山台中学校区は、「過小規模」となる小学校、中学校が 1 校ずつであり、それぞれ単独で適正規模の課題を解決することが困難であることから、藤山台中学校区と隣接する中学校区とあわせて検討する必要がある。
- 2 登下校の安全性や時間を心配する方が多いことから、バスの利用など通学手段についても検討する必要がある。

3 意見交換

【質問 1】

市の 1 学年に 2 学級以上必要という考え方は変わらないのか。

【事務局】

1 学年に複数学級がありクラス替えができることで、子どもたちが新しい人間関係を築き子どもたちの社会性が成長することや、集団で行う授業が実施できることなどのメリットがあります。また、教員が 1 学年に複数配置されることで、教員が切磋琢磨する環境が生まれ、その好影響が子どもへフィードバックされることも考えられます。

【質問 2】

学校選択制について議論することはあるのか。春日井市では、一部の学校で先進的な教育を実施していることから、学校を選択できないことが公平な教育を受けることができないと考えられるのではないか。

【事務局】

本市では、原則、居住地によって学校を指定しています。学校選択制は、学校ごとに人数の偏りが生じるなどの課題があることから検討していません。

ICT 等の先進的な教育を実施している学校もありますが、市内の学校には取組の成果の水平展開を進めています。また、いずれはその取組がスタンダードになり、学習指導要領が変わっていくと考えています。

【質問 3】

小学校に関して、1 学級あたりの子どもの数を減らして、学級数を増やす対応を取ればよいのではないのか。

【事務局】

本市の 1 学級あたりの人数は、愛知県の基準と同様に、小学校の全学年及び中学 1 年生は 35 人、中学校の 2、3 年生は 40 人としており、その基準をもって教員数が配置されています。1 クラスあたりの子どもの数を減らし学級数を増やしても、教員が配置されないことから、市独自の基準で実施することは困難です。

【質問 4】

中学校は統廃合を行い、小学校は現状のままという選択肢はあるのか。

【事務局】

現状、統廃合ありきで考えていません。地域コミュニティの実情や地域の特性などはそれぞれ異なるので、今後皆様と検討を重ねていきたいと考えています。

【質問 5】

地域の方が現状のままでよいという意見であった場合、学校を残すこともあるのか。

【事務局】

アンケート結果からは、多くの方が市の取組に賛成しています。ただし、今後の検討において、皆さまの考えが変わることもあるかもしれませんので、選択肢としてはあると考えています。

【質問 6】

今後の方向性を示すタイミングはいつ頃を考えているのか。

【事務局】

今回の意見交換会は、学校の適正規模や適正配置の取組に対し、まずは様々な立場の方の意見をお聞きしたいと考え開催しました。いただいた意見を踏まえて、より具体的に今後の方向性を示したいと考えています。時期は未定ですが、スピード感をもって取り組んでいきます。

【質問 7】

大規模校に通っている子どもの保護者から、教員の目が行き届いていないという話を聞いた。学校の適正規模等について考える際には、いろいろな方の意見をもっと聞くべきだと思うので、適切にアピールしてほしい。未就学児の保護者などにもわかりやすい説明に努めてほしい。子どもが中学校を卒業して学校に関係がなくなってしまう方や地域の方にも周知する方法を考えてほしい。

【事務局】

検討にあたっては、様々な方の意見をいただきたいと思います。次回は、中学校区単位で意見交換会の実施を考えており、その際は、より多くの方が参加しやすいように土曜日や日曜日に開催することを考えています。日程が決まりましたら、改めてご連絡します。

【質問 8】

近隣地域の情報を提供してもらえると保護者の視野も広がるので、適切な周知をお願いしたい。

【事務局】

近隣市の状況においては、小牧市が篠岡地区で学校統合に向けた動きが進んでいます。また、他の県内他市でも検討が進んでいると聞いています。今後の検討にあたり、このような情報も提供していきます。

【質問 9】

春日井市では統合ありきで考えているのか。今後、ニュータウン全体で学校を統合することや、小中一貫校にするといった考えはあるのか。

【事務局】

統合ありきではありません。

将来的にはニュータウン地区全体での子どもの人数は減少すると考えており、ニュータウン全体を俯瞰して考える時期がくると考えています。

また、小中一貫校を導入するかは、導入することによるメリット、デメリットなどを慎重に協議していきたいと考えています。

【質問 10】

仮に統合すると考えた場合、新しい校舎を建てるのか、古い校舎を改修するのか何か基準はあるのか。

【事務局】

具体的な基準はありません。統合となった場合は、既存の校舎をそのまま活用する方法、既存の校舎を大規模改修して使う方法、新しく校舎を建設する方法が考えられます。今後、地域の方からの意見や市の財政状況などを踏まえ、検討していきます。

【質問 11】

現在、部活を通じて他校との交流がなされている。仮に統合になった場合、事前に交流をしっかりと行うなどといった考えはあるのか。

【事務局】

具体的には決まっていますが、仮に統合となった場合、子どもたちがスムーズに対応できるように事前に交流の場を設けるなど検討が必要と考えています。

【質問 12】

学校には避難所としての機能がある。仮に統合となった場合、地域に避難所がなくなることについて、市はどのように考えるのか。体育館の代替について、案はあるのか。

【事務局】

学校は防災などで地域の重要な拠点となっていることから、仮に統合する場合でも、地域の方が災害時にこれまでと比べてなるべく不便にならないように検討したいと考えております。

【質問 13】

地域の方のアンケートについて、反対の割合が 0 %であったが、回答人数が 46 人であった。地域の方はどのような基準で選び、何人の方に送ったのか。

【事務局】

地域アンケートは、案内チラシを 7 月号の広報に合わせて、坂下、ニュータウン地区の約 25,000 世帯に配布し、6 月 26 日から 7 月 13 日の期間で実施しました。

【質問 14】

地域アンケートは、対象地区全体で何人回答されたのか。

【事務局】

436 人です。

【質問 15】

今回のアンケートの中で、少人数学級の方が良いという意見はなかったのか。

【事務局】

「学校の規模や配置を見直す場合に心配なこと」の質問では、多くの方が登下校のことを心配されていましたが、他に、きめ細かな教育が受けられなくなるなどの意見がありました。

【質問 16】

中学校の校舎を安全できれいにしてもらいたい。どれくらい改修するのにかかるのか。

【事務局】

基本設計、実施設計をした後に工事をすることから、5 年程度は必要と考えています。

【質問 17】

統合が決定すると、現在の地域での活動はどうなるのか。

【事務局】

統合された場合は、一つの新しい集まりになると考えますが、今までの活動がなくなるわけではないです。地域によってそれぞれの良さがあるので、先進的に実施している活動を水平展開することや、学校と地域が引き続き協力し合うことが必要だと考えています。

【質問 18】

各地区で特性が違う。藤山台地区と近隣の地区が合同で話を聞くことができる機会を作ってほしい。

【事務局】

今後の進め方について、年内に藤山台小学校を含めた藤山台中学校区の意見交換会の開催を考えています。その後、保護者や地域の代表の方、学校関係者を含めた協議会のようなものを立ち上げて検討を進め、状況に応じて、他の地区との合同で意見交換できるような機会も開催したいと考えています。

【質問 19】（意見）

過大規模校になっている学校もある。まずは過大規模校を解決してから過小規模校を解決するべきと考える。

【質問 20】（意見）

小規模校の関係者だけに意見を聞くのではなく、過大規模校など他の学校の方にも意見を聞いた方が良くと思う。

4 今後の進め方について

【事務局】

- ・まずは、本日開催している意見交換会を 10 月 15 日に藤山台小学校で開催し、その際にいただいたご意見などを取りまとめた上で、次は藤山台中学校区の単位で、年内に 2 回目の意見交換会を開催したいと考えている。
- ・その後、藤山台中学校区で保護者や地域の代表の方、また、学校関係者などで構成する、学校づくりを検討するための組織を立ち上げ、学校の適正規模や適正配置について、具体的な検討を行っていきたいと考えている。
- ・次回の意見交換会の日程は、市ホームページでお知らせするほか、保護者の方へは Home&School で、地域の皆様へは回覧板でお知らせする。

5 閉会

午後 8 時 閉会